

T-G092



## 最 終 報 告 書

乳酸エチルのほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験

試験番号：T-G092

試験期間：2013年11月21日-2014年3月20日

### 試験施設

株式会社ボゾリサーチセンター 東京研究所  
〒156-0042 東京都世田谷区羽根木 1-3-11

### 試験委託者

厚生労働省 医薬食品局  
審査管理課 化学物質安全対策室  
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1丁目2番2号

株式会社ボゾリサーチセンター  
〒151-0065 東京都渋谷区大山町 36-7

T-G092

## 1. GLP 陳述書

試験番号 : T-G092

試験表題 : 乳酸エチルのほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験

本試験は以下の GLP 基準を遵守して実施したものです。

- 「新規化学物質等に係る試験を実施する試験施設に関する基準」  
(平成 23 年 3 月 31 日、薬食発 0331 第 8 号、平成 23・03・29 製局第 6 号、  
環保企発第 110331010 号)

2014 年 3 月 20 日

試験責任者

株式会社ボゾリサーチセンター 東京研究所 研究部

## 2. 目次

1.	GLP陳述書 .....	2
2.	目次 .....	3
3.	試験実施概要 .....	6
3.1	試験番号 .....	6
3.2	試験表題 .....	6
3.3	試験目的 .....	6
3.4	試験委託者 .....	6
3.5	試験受託者 .....	6
3.6	試験実施施設 .....	6
3.7	試験日程 .....	6
3.8	試験責任者 .....	6
3.9	試験担当者 .....	7
3.10	予見することができなかつた試験の信頼性に影響を及ぼす疑いのあ る事態及び試験計画書に従わなかつたこと .....	7
3.11	資料保存 .....	7
3.12	試験責任者の記名・捺印及びその日付 .....	7
4.	要約 .....	8
5.	緒言 .....	9
6.	試験材料及び方法 .....	10
6.1	被験物質及び溶媒 .....	10
6.1.1	被験物質 .....	10
6.1.2	溶媒 .....	11
6.1.3	溶媒の選択理由 .....	11
6.2	被験液の調製 .....	11
6.2.1	調製方法 .....	11
6.2.2	調製頻度 .....	11
6.2.3	安定性 .....	11
6.3	対照物質 .....	12
6.3.1	陰性対照 .....	12
6.3.2	陽性対照 .....	12
6.4	使用細胞株 .....	13
6.4.1	細胞株 .....	13
6.4.2	細胞の選択理由 .....	13
6.4.3	培養条件 .....	13
6.5	S9 mix及び培養液の調製 .....	13
6.5.1	S9 mix .....	13

6.5.2	培養液 .....	14
6.6	試験方法 <sup>1)-5)</sup> .....	14
6.6.1	識別方法 .....	15
6.6.2	用量の設定 .....	15
6.6.3	細胞増殖抑制試験 .....	15
6.6.4	染色体異常試験 .....	16
6.6.5	試験結果の取扱い .....	17
6.6.6	標本の観察 .....	18
6.6.7	染色体異常の分類 .....	18
6.6.8	判定基準 .....	18
7.	試験結果 .....	20
7.1	細胞増殖抑制試験 .....	20
7.2	染色体異常試験 .....	20
8.	考察 .....	21
9.	文献 .....	22

### 図

Fig. 1	Results of the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: -S9 mix] .....	23
Fig. 2	Results of the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: +S9 mix] .....	24
Fig. 3	Results of the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Continuous treatment: 24hr] .....	25

### 表

Table 1	Chromosome aberration in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: -S9 mix] .....	26
Table 2	Chromosome aberration in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: +S9 mix] .....	27
Table 3	Chromosome aberration in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Continuous treatment: 24hr] .....	28

付表

Appendix 1	Results of the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate .....	29
Appendix 2-1	Cell-growth ratio in the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: -S9 mix].....	30
Appendix 2-2	Cell-growth ratio in the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: +S9 mix].....	31
Appendix 2-3	Cell-growth ratio in the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Continuous treatment: 24hr].....	32
Appendix 3-1	Results of observation in the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: -S9 mix].....	33
Appendix 3-2	Results of observation in the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Short-term treatment: +S9 mix].....	34
Appendix 3-3	Results of observation in the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate [Continuous treatment: 24hr].....	35
信頼性保証書	.....	36

T-G092

### 3. 試験実施概要

#### 3.1 試験番号

T-G092

#### 3.2 試験表題

乳酸エチルのほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験

#### 3.3 試験目的

ほ乳類の培養細胞（CHL/IU 細胞株）を用いて、乳酸エチルの染色体異常誘発能を検討した。

#### 3.4 試験委託者

厚生労働省 医薬食品局 審査管理課 化学物質安全対策室  
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1丁目2番2号  
TEL : 03-3595-2298 (課直通) FAX : 03-3593-8913

#### 3.5 試験受託者

株式会社ボゾリサーチセンター  
〒151-0065 東京都渋谷区大山町36-7

#### 3.6 試験実施施設

株式会社ボゾリサーチセンター 東京研究所  
〒156-0042 東京都世田谷区羽根木1-3-11

#### 3.7 試験日程

試験開始日	:	2013年11月21日
被験物質受領日	:	2013年7月2日
実験開始日	:	2013年11月23日
実験終了日	:	2013年12月28日
試験終了日	:	2014年3月20日

#### 3.8 試験責任者

株式会社ボゾリサーチセンター 東京研究所 研究部



### 3.9 試験担当者

被験物質保存責任者：

化学分析責任者：

試験担当者：



### 3.10 予見することができなかつた試験の信頼性に影響を及ぼす疑いのある事態及び試験計画書に従わなかつたこと

本試験において予見することができなかつた試験の信頼性に影響を及ぼす疑いのある事態及び試験計画書に従わなかつたことはなかつた。

### 3.11 資料保存

試験計画書原本（変更書含む）、記録文書、生データ、染色体標本及び報告書類（最終報告書の原本を含む）は株式会社ボゾリサーチセンター御殿場研究所の資料保存施設に最終報告書提出後 10 年間保存する。期間終了後の保存については、厚生労働省医薬食品局 審査管理課 化学物質安全対策室と株式会社ボゾリサーチセンター間で協議し、その処置を決定する。

### 3.12 試験責任者の記名・捺印及びその日付



2014 年 3 月 20 日



株式会社ボゾリサーチセンター 東京研究所 研究部

#### 4. 要約

乳酸エチルの染色体異常誘発能の有無を検討するため、チャイニーズ・ハムスター肺由来線維芽細胞（CHL/IU）を用いた染色体異常試験を実施した。

染色体異常試験の用量を設定するため、最高用量を 1200  $\mu\text{g}/\text{mL}$  とし、以下公比 2 で希釈した計 8 用量を設定し、細胞増殖抑制試験を行った。その結果、すべての処理法で 50%を超える細胞増殖抑制作用は認められなかった。以上の結果より、すべての処理法で 1200  $\mu\text{g}/\text{mL}$  を最高用量とし、以下公比 2 で希釈した計 3 用量を設定し、染色体異常試験を実施した。

染色体異常試験の結果、染色体構造異常の一つの指標であるギャップを含まない染色体異常を有する細胞の出現率（TA 値）及び倍数体の出現率は、いずれの処理法においても、すべての用量で陰性の判定基準である 5%未満を示したため、陰性と判定した。

なお、すべての処理法において、陰性対照群では染色体構造異常を有する細胞及び倍数体の出現頻度は 5%未満で、陰性の判定基準内であった。これに対して、陽性対照群では著しい染色体構造異常の誘発が認められた。したがって、試験は適切に実施されたと考えられた。

以上の結果から、乳酸エチルは本試験条件下において、染色体構造異常及び染色体数的異常を誘発しないと結論した。

## 5. 緒言

厚生労働省 医薬食品局 審査管理課 化学物質安全対策室の依頼により、乳酸エチルの安全性評価の一環として、ほ乳類の培養細胞（CHL/IU）を用いる染色体異常試験を実施したので、その成績を報告する。なお、本試験は以下の基準を遵守し、ガイドラインに準拠して実施した。

### 1) GLP

- 「新規化学物質等に係る試験を実施する試験施設に関する基準」  
（平成 23 年 3 月 31 日、薬食発 0331 第 8 号、平成 23・03・29 製局第 6 号、  
環企発第 110331010 号）

### 2) 毒性試験ガイドライン

- 「新規化学物質等に係る試験の方法について」  
（平成 23 年 3 月 31 日：薬食発 0331 第 7 号、平成 23・03・29 製局第 5 号、環  
保企発第 110331009 号）
- 「OECD Guidelines for Testing of Chemicals 473」  
（OECD 理事会：1997 年 7 月 21 日）

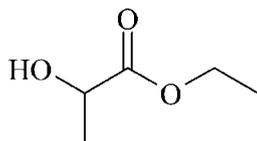
T-G092

## 6. 試験材料及び方法

### 6.1 被験物質及び溶媒

#### 6.1.1 被験物質

供給者	:	理科研株式会社
製造元	:	Sigma-Aldrich Co. LLC.
名称	:	乳酸エチル
英名	:	Ethyl lactate
ロット番号	:	MKBJ 4932V
入手量	:	20.1935 g (T-G092 用として)
CAS 番号	:	97-64-3
構造式又は示性式	:	



分子式	:	$C_5H_{10}O_3$
分子量	:	118.13
純度	:	$\geq 98.0\%$
融点	:	$-25^\circ C$ *
沸点	:	$154^\circ C$ *
蒸気圧	:	3.75 mmHg ( $25^\circ C$ ) *
分配係数	:	-0.18 *
密度	:	$1.042\text{ g/cm}^3$ *
ヘンリー定数	:	$5.83 \times 10^{-7}\text{ atm m}^3/\text{mol}$ ( $25^\circ C$ ) *
引火点	:	$46.1^\circ C$ *
発火点	:	$400^\circ C$ *
常温における性状	:	無色液体
試験期間中の安定性	:	実験終了後、株式会社ボゾリサーチセンター 御殿場研究所で被験物質の安定性を確認した。
保存条件	:	冷所（実測値： $2.7 \sim 8^\circ C$ 、2013年7月2日～2014年1月30日）、密栓
保存場所	:	東京研究所 被験物質保存室 御殿場研究所 被験物質保存室及び生化学室
取り扱い上の注意	:	作業場の換気を十分に行い、マスク、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用し、直接の接触を防ぐ。取り扱い後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。

T-G092

使用後の処理 : 被験物質の残量は安定性を確認後、すべて廃棄した。  
\* : 独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質総合情報システム (CHRIP) の情報による。

### 6.1.2 溶媒

名称 : 注射用水  
ロット番号 : 3D84N、3D91N  
規格 : 日本薬局方  
製造元 : 株式会社大塚製薬工場  
保存方法 : 室温  
保存場所 : 東京研究所 培養細胞試験室

### 6.1.3 溶媒の選択理由

供試前試験の結果、注射用水 (12.0 mg/mL) に溶解したことから、溶媒として注射用水を用いた。

## 6.2 被験液の調製

### 6.2.1 調製方法

#### 1) 細胞増殖抑制試験

被験物質 0.1200 g を 10 mL メスフラスコに秤取した。溶媒を添加し、溶解した後に、メスアップして最高濃度の 12.0 mg/mL 溶液 (プレートに 0.500 mL 添加した際の最終濃度 : 1200 µg/mL) を調製した。次いで、12.0 mg/mL 溶液を公比 2 (各濃度の被験液 5 mL : 溶媒 5 mL) で順次 7 段階希釈し、6.00、3.00、1.50、0.750、0.375、0.188 及び 0.0938 mg/mL の 8 濃度段階の被験液を調製した。

#### 2) 染色体異常試験

被験物質 0.1200 g を 10 mL メスフラスコに秤取した。溶媒を添加し、溶解した後に、メスアップして最高濃度の 12.0 mg/mL 溶液 (プレートに 0.500 mL 添加した際の最終濃度 : 1200 µg/mL) を調製した。次いで、12.0 mg/mL 溶液を公比 2 (各濃度の被験液 5 mL : 溶媒 5 mL) で順次 2 段階希釈し、6.00 及び 3.00 mg/mL の 3 濃度段階の被験液を調製した。

### 6.2.2 調製頻度

用時に調製した。

### 6.2.3 安定性

用時調製のため、安定性確認は実施しなかった。

T-G092

## 6.3 対照物質

### 6.3.1 陰性対照

溶媒として用いる注射用水を陰性対照とした。

### 6.3.2 陽性対照

#### 1) 非代謝活性化系

マイトマイシン C (MMC)

ロット番号	:	566ABB
製造元	:	協和発酵キリン株式会社
力価	:	2 mg (力価) /瓶
保存方法	:	室温、遮光
保存場所	:	東京研究所 培養細胞試験室

#### 2) 代謝活性化系

シクロフォスファミド (CP)

ロット番号	:	WEF3430
製造元	:	和光純薬工業株式会社
純度	:	生化学用 (97.0%以上)
保存方法	:	冷蔵 (許容範囲: 1~10°C)、遮光
保存場所	:	東京研究所 培養細胞試験室 冷蔵庫

#### 3) 調製方法

調製はすべて用時に行った。

##### (1) MMC

MMC の 2 mg 充填バイアルに生理食塩液 (日本薬局方、株式会社大塚製薬工場、ロット番号: K3E91) を 2 mL 加えて溶解した (1 mg/mL)。次に、この溶液を公比 20 で順次 2 段階希釈 (溶液 0.250 mL : 生理食塩液 4.750 mL) し、0.050 及び 0.0025 mg/mL の溶液を調製した (短時間処理法の非代謝活性化では培養液 4.850 mL に 0.0025 mg/mL 溶液を 0.150 mL 加えた。連続処理法では培養液 4.900 mL に 0.0025 mg/mL 溶液を 0.100 mL 加えた。この時の最終濃度は、それぞれ 0.075 µg/mL 及び 0.050 µg/mL)。

##### (2) CP

CP 0.0140 g を γ 線滅菌済プラスチック遠沈管 (50 mL) に秤取した。これに生理食塩液 (日本薬局方、株式会社大塚製薬工場、ロット番号: K3E91) を 20 mL 加えて溶解し、0.70 mg/mL 溶液を調製した (培養液 4.900 mL に 0.100 mL を加えた。この時の最終濃度は 14 µg/mL)。

#### 4) 陽性対照物質の選択理由

毒性試験ガイドライン (前述 5. 2)) に使用が推奨されているため。

T-G092

## 6.4 使用細胞株

### 6.4.1 細胞株

チャイニーズ・ハムスターの肺由来線維芽細胞 (CHL/IU) を用いた。ヒューマンサイエンス研究資源バンクから 2010 年 10 月 13 日に入手し、凍結保存した細胞について定期的に細胞の性状検査を実施して、性状が適正であること (培養形態、細胞倍加時間 15~20 時間以内、染色体数の平均が 25 本、マイコプラズマ等の汚染がない) が確認されたものを 30 継代以内で試験に使用した。使用時の細胞継代数は細胞増殖抑制試験で 17 継代、染色体異常試験で 21 継代であった。

### 6.4.2 細胞の選択理由

毒性試験ガイドライン (前述 5. 2)) に使用が推奨されているため。

### 6.4.3 培養条件

炭酸ガス培養装置を用い、CO<sub>2</sub>濃度 5%、温度 37°C、高湿度条件下で培養した。継代は 1~4 日ごとに行った。

## 6.5 S9 mix 及び培養液の調製

### 6.5.1 S9 mix

S9 及び補酵素 (S9/コファクターC セット、ロット番号: C130809051 及び C130712041) を混合し、S9 mix を調製した。調製は用時に行った。

#### 1) S9

名称	:	S9
製造元	:	オリエンタル酵母工業株式会社
ロット番号	:	13080905、13071204
製造日	:	2013 年 8 月 9 日 (ロット番号: 13080905) 2013 年 7 月 12 日 (ロット番号: 13071204)
種・系統	:	ラット・SD 系
週齢・性	:	7 週齢・雄
誘導物質	:	フェノバルビタール(PB)及び 5,6-ベンゾフラボン(BF)
投与方法	:	腹腔内投与
投与期間及び投与量	:	PB4 日間連続投与 30+60+60+60(mg/kg 体重) PB 投与 3 日目 BF 投与 80(mg/kg 体重)
使用期限	:	2014 年 2 月 8 日 (ロット番号: 13080905) 2014 年 1 月 11 日 (ロット番号: 13071204)
保存方法	:	冷凍(-70°C 以下)
保存場所	:	東京研究所 培養細胞試験室 超低温フリーザ

#### 2) 補酵素

名称	:	コファクターC
----	---	---------

T-G092

製造元 : オリエンタル酵母工業株式会社  
ロット番号 : C13080705、C13071004  
製造日 : 2013年8月7日 (ロット番号:C13080705)  
2013年7月10日 (ロット番号:C13071004)  
保存方法 : 冷凍(-70°C以下)  
使用期限 : 2014年2月6日 (ロット番号:C13080705)  
2014年1月9日 (ロット番号:C13071004)  
保存場所 : 東京研究所 培養細胞試験室 超低温フリーザ

3) S9 mix の組成 (1 mL 中)

水 : 0.7 mL  
S9 : 0.3 mL  
MgCl<sub>2</sub> : 5 μmol/mL  
KCl : 33 μmol/mL  
グルコース-6-リン酸 : 5 μmol/mL  
酸化型ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸(NADP) : 4 μmol/mL  
HEPES 緩衝液(pH7.2) : 4 μmol/mL

### 6.5.2 培養液

Minimum Essential Medium (MEM)(GIBCO™、Cat.No.11095)に非働化 (56°C、30分) した牛血清(bovine serum、BS)を 10 v/v%添加した培養液(BS-MEM)を用いた。調製後の培養液は冷蔵保存した。

1) 牛血清

ロット番号 : 990250、1127560  
製造元 : Life Technologies Corporation  
保存方法 : 冷凍 (-20°C以下)  
保存場所 : 東京研究所 培養細胞試験室 冷凍庫

2) Minimum Essential Medium (MEM)

ロット番号 : 1374776  
製造元 : Life Technologies Corporation  
保存方法 : 冷蔵 (許容範囲: 1~10°C)  
保存場所 : 東京研究所 培養細胞試験室 冷蔵庫

### 6.6 試験方法<sup>1)-5)</sup>

試験は以下に示したステージの順に実施した。

1. 細胞増殖抑制試験	短時間処理法	非代謝活性化 代謝活性化
	連続処理法	24 時間処理
2. 染色体異常試験	短時間処理法	非代謝活性化 代謝活性化
	連続処理法	24 時間処理

### 6.6.1 識別方法

以下のように定めた記号又は数字を記したラベルを、シャーレ及びスライドグラスに貼付して識別を行った。

対象	内容	記号又は数字
シャーレ	短時間処理法 非代謝活性化	-
	短時間処理法 代謝活性化	+
	連続処理法 24 時間処理	24-
	陰性対照群	NC
	被験物質処理群	高濃度から 1、2、3・・・n の枝番号
	陽性対照群	PC
同一処理群内での識別		1、2、3
染色体標本	盲検法によってランダムにコード化した処理内容	試験番号とコンピュータが無作為に割り振った「01」～「99」までの 2 桁の番号及びスライドの枚数を表す枝番号

### 6.6.2 用量の設定

#### 1) 細胞増殖抑制試験

最高用量を 1200 µg/mL (10mM 相当) とし、以下公比 2 で希釈した 600、300、150、75.0、37.5、18.8 及び 9.38 µg/mL の計 8 用量を設定した。また、これに陰性対照群を設けた。

#### 2) 染色体異常試験

最高用量を 1200 µg/mL とし、以下公比 2 で希釈した 600 及び 300 µg/mL の計 3 用量を設定した。これに陰性対照群及び陽性対照群を設けた。

### 6.6.3 細胞増殖抑制試験

染色体異常試験の用量を設定するための予備試験として実施した。なお、以下の試験操作のうち、無菌性を必要とする場合は、無菌環境下において、滅菌済の器具を用いて、無菌操作によって実施した。

#### 1) 短時間処理法の代謝活性化と非代謝活性化、連続処理法の 24 時間処理のそれぞれに、陰性対照群及び被験物質処理群を設けた。シャーレ (プレート) はプラス

チックプレート（直径 60 mm）を用い、各群 1 枚とした。

- 2) プレート当たり  $2 \times 10^4$  個の細胞（培養液 5.0 mL）を播種した。
- 3) 培養 3 日後、倒立位相差顕微鏡下で細胞に異常がないことを確認後、下表に従い、培養液の除去及び処理を実施した。

	短時間処理法		連続処理法
	非代謝活性化	代謝活性化	
培養液除去量	0.500 mL	1.333 mL	0.500 mL
S9 mix 添加量		0.833 mL	
溶媒・被験液 添加量	0.500 mL	0.500 mL	0.500 mL

- 4) 被験物質処理後、肉眼で析出の有無及び培養液の色調を確認した。確認後、短時間処理法では 6 時間、連続処理法では 24 時間培養した。
- 5) 6 時間培養後、短時間処理法については、4)と同様に析出の有無を確認するとともに、倒立位相差顕微鏡下で細胞の状態を確認した。次いで、牛血清を約 2% となるよう添加した生理食塩液で細胞を洗浄し、新しい培養液 5.0 mL を加え、更に 18 時間培養した。
- 6) 培養終了後、肉眼で被験物質の析出の有無を観察するとともに、倒立位相差顕微鏡下で観察し、細胞の状態を確認した。（短時間処理法の培養終了時の結果は、参考データとした）。
- 7) 次いで、以下の方法に従い、各プレートの細胞濃度を測定した。
  - (1) 当該プレートの培養液を廃棄し、Phosphate-Buffered Saline (-) (PBS (-)) を適量加えプレートを洗浄した。
  - (2) PBS(-)を廃棄し、0.25%トリプシン溶液 (Trypsin 0.25%、Life Technologies Corporation) を 1 mL 加え、約 5 分間静置した。
  - (3) ピペッティングで細胞を剥離・分散させた後、プレートに新しい 10%BS-MEM 培養液を 1 mL 添加し、血球計算盤を用いて細胞濃度を測定した。血球計算盤の計数値は、8 区画の平均値の小数点第 1 位を四捨五入したものを相対的細胞数 (RCC : Relative Cell Count) の計算に用いた。
- 8) 得られた細胞濃度から、式 1 に従い、陰性対照群を 100%とした各群の相対的細胞数 (RCC) を算出した。

$$RCC (\%) = \frac{(\text{被験物質処理群における細胞数}) \times 100}{(\text{陰性対照群における細胞数})}$$

[式 1]

- 9) 細胞増殖抑制率 (=100-RCC) \*を算出し、50%を挟む 2 点の直線式から、50%細胞増殖抑制濃度 (概略値) を算出した。

\*計算値が 0 以下の場合は 0 として扱う。

#### 6.6.4 染色体異常試験

以下の試験操作のうち、無菌性を必要とする場合は、無菌環境下において、滅菌済

の器具を用いて、無菌操作によって実施した。

- 1) 短時間処理法の代謝活性化と非代謝活性化、連続処理法の 24 時間処理のそれぞれに、陰性対照群、被験物質処理群及び陽性対照群を設けた。シャーレ（プレート）はプラスチックプレート（直径 60 mm）を用い、各群 3 枚（枝番号-1、2 及び 3）とした。ただし、陽性対照群は 2 枚（枝番号-1 及び-2）とした。
- 2) プレート当たり  $2 \times 10^4$  個の細胞（培養液 5.0 mL）を播種した。
- 3) 培養 3 日後に、倒立位相差顕微鏡下で細胞に異常がないことを確認後、下表に従い、培養液の除去及び処理を実施した。

	短時間処理法		連続処理法
	非代謝活性化	代謝活性化	
培養液除去量	0.500 mL (0.150 mL)*	1.333 mL (0.933 mL)*	0.500 mL (0.100 mL)*
S9 mix 添加量	0.833 mL		
溶媒・被験液・ 陽性対照物質液 添加量	0.500 mL (MMC: 0.150 mL)*	0.500 mL (CP: 0.100 mL)*	0.500 mL (MMC: 0.100 mL)*

\*：（ ）内は、陽性対照群の培養液除去量及び陽性対照物質液添加量を示す。

- 4) 被験物質処理後、肉眼で析出の有無及び培養液の色を確認し、短時間処理法では 6 時間、連続処理法では 24 時間培養した。
- 5) 6 時間培養後、短時間処理法については肉眼で被験物質の析出を、倒立位相差顕微鏡で細胞の状態を確認した。次いで、約 2% となるよう牛血清を添加した生理食塩液で細胞を洗浄し、新しい培養液 5.0 mL を加え、更に 18 時間培養した。
- 6) 各群 2 枚のプレート（枝番号-1 及び-2）について、染色体観察用標本作製のため培養終了の約 2 時間前にコルセミド（デメコルシン溶液、10 µg/mL）を 0.1 mL 加えた。
- 7) 培養終了後、プレートの培養液を遠沈管に移し、0.25% トリプシン溶液（Trypsin 0.25%、Life Technologies Corporation）で細胞を剥がし、回収・遠心分離した。次いで、遠心分離によって集めた細胞を 0.075M 塩化カリウム溶液で約 15 分間低張処理し、メチルアルコール：酢酸=3：1 液で固定した。固定した細胞をスライドガラス 1 枚につき 2 箇所点滴した。染色体標本はプレート当たり 2 枚作製した。細胞点滴後、約 1 日以上空気乾燥し、2% ギムザ液で約 15 分間染色して染色体標本作製した。
- 8) 残る各群 1 枚のプレート（枝番号-3）は、肉眼で被験物質の析出を、倒立位相差顕微鏡で細胞の状態を確認した（短時間処理法の培養終了時の結果は、参考データとした）。その後、細胞増殖抑制試験に準じて細胞濃度を測定し、RCC を算出した。

### 6.6.5 試験結果の取扱い

RCC 算出には表示値を用い、下記の桁数に従って計算した。

- 1) 細胞濃度については、血球計算盤における 8 区画の計数値の平均値の小数点第 1

位を四捨五入し、整数で表示した（単位：計数值の平均値 × 10<sup>4</sup> cells/mL）。

- 2) RCC（百分率）については、1) の表示値を用いて計算し、小数点第 1 位を四捨五入し整数として表示した。

#### 6.6.6 標本の観察

顕微鏡下でプレート当たり 100 個の染色体が良く展開した分裂中期像を観察し、構造異常の種類と異常を持つ細胞の数を記録した。同時に倍数体の出現数も記録した。染色体標本の観察はすべてブラインド化で行った。

#### 6.6.7 染色体異常の分類

染色体異常は構造異常と数的異常に大別し、構造異常は更に以下のように定義・分類した。

##### 1) 構造異常

染色体異常の種類は以下のように定義し分類した。

- ギャップ(g) : 染色分体型(ctg)及び染色体型(csg)を含むギャップとは染色体又は染色分体の同軸上に断片があるもの（非染色部分が染色分体の同軸上にある）であって、その長さが染色分体の幅以下で明瞭な非染色部位が認められるもの。
- 染色分体型切断(ctb) : 断片が染色分体の同軸上からはずれているもの及び非染色部位が染色分体の同軸上にあっても、その長さが染色分体の幅以上に離れているもの。
- 染色分体型交換(cte) : 四放射状交換など。
- 染色体型切断(csb) : 断片が染色体の同軸上からはずれており動原体が認められないもの及び非染色部位が染色体の同軸上にあっても、その長さが染色分体の幅以上に離れているもの。
- 染色体型交換(cse) : 二動原体染色体、環状染色体など。
- その他(other) : 断片化(frg)など。

##### 2) 数的異常

染色体数が、その細胞が本来持っている固有の数（二倍体）と異なり、倍化した場合を数的異常と定義した。

- 倍数性 : polyploidy（核内倍加体：endoreduplicationを含む）

#### 6.6.8 判定基準

判定に際しては統計学的手法を用いず、石館らの基準<sup>1)</sup>に従い染色体の構造並びに数的異常を持つ細胞の出現率（%）によって以下のように判定した。

T-G092

異常細胞の出現率	判定基準
5%未満	陰 性 (-)
5%以上 10%未満	疑陽性 (±)
10%以上	陽 性 (+)

構造異常の総出現率は、ギャップを含む場合 (TAG) と含まない場合 (TA) とに分け、総合判定は後者によって行った。

異常細胞の出現率に用量依存性又は再現性が認められた場合を陽性と判定した。

## 7. 試験結果

### 7.1 細胞増殖抑制試験

結果を Appendix 1、Appendix 2-1~2-3 に示した。

被験液添加に伴う析出の有無及び色調変化は、いずれの処理法においても認められなかった。細胞増殖抑制試験の結果、すべての処理法で 50%を超える細胞増殖抑制作用は認められなかった。以上の結果より、すべての処理法で 1200 µg/mL を最高用量とし、以下公比 2 で希釈した計 3 用量を設定し、染色体異常試験を実施した。

### 7.2 染色体異常試験

結果を Fig.1~3、Table 1~3、Appendix 3-1~3-3 に示した。

被験液添加に伴う析出の有無及び色調変化は、いずれの処理法においても認められなかった。

染色体標本の観察の結果、構造異常の出現率（ギャップを含まない場合）及び倍数性異常ともに、いずれの処理法においても増加は認められなかった。

T-G092

## 8. 考察

乳酸エチルの染色体異常誘発能の有無を検討するため、チャイニーズ・ハムスター肺由来線維芽細胞（CHL/IU）を用いた染色体異常試験を実施した。

染色体異常試験の結果、染色体構造異常の一つの指標であるギャップを含まない染色体異常を有する細胞の出現率（TA 値）及び倍数体の出現率は、いずれの処理法においても、すべての用量で陰性の判定基準である 5%未満を示したため、陰性と判定した。

なお、すべての処理法において、陰性対照群では染色体構造異常を有する細胞及び倍数体の出現頻度は 5%未満で、陰性の判定基準内であった。これに対して、陽性対照群では著しい染色体構造異常の誘発が認められた。従って、試験は適切に実施されたと考えられた。

本被験物質はAmes試験で陰性<sup>6)7)</sup>と報告されている。また、類縁化合物である乳酸ではAmes試験で陰性<sup>7)</sup>、染色体異常試験で陽性<sup>7)</sup>と報告されている。

以上の結果より、乳酸エチルは本試験条件下において、染色体構造異常及び染色体数的異常は誘発しないと結論した。

## 9. 文献

- 1) 石館基監修 (1987) : <改訂>染色体異常試験データ集、pp. 19-24、エル・アイ・シー、東京
- 2) Ishidate M Jr. and Odashima S (1977): Chromosome test with 134 compounds on Chinese hamster cells *in vitro* – A screening for chemical carcinogens, *Mutat. Res.*, **48**, 337-354
- 3) Matsuoka A, Hayashi M and Ishidate M Jr. (1979): Chromosomal aberration tests on 29 chemicals combined with S9 mix *in vitro*, *Mutat. Res.*, **66**, 277-290
- 4) 石館 基 (1982) : 哺乳動物細胞を用いる検索と問題点(Screening Trial to Detect Possible Chemical Mutagens and/or Carcinogens in the Environment - Mammalian Cell Systems), 日本化粧品科学会誌, **6**, 31-43
- 5) Ishidate M Jr., Edited by Obe G and Natarajan AT (1989): Chromosomal Aberrations Basic and Applied Aspects, Springer-Verlag Berlin Heidelberg, 260-271
- 6) (2014) : 乳酸エチルの細菌を用いる復帰突然変異試験 (試験番号 : T-1296) 、株式会社ボゾリサーチセンター
- 7) European Food Safety Authority (EFSA), <http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/doc/975.pdf>, (accessed 2014-02-18)

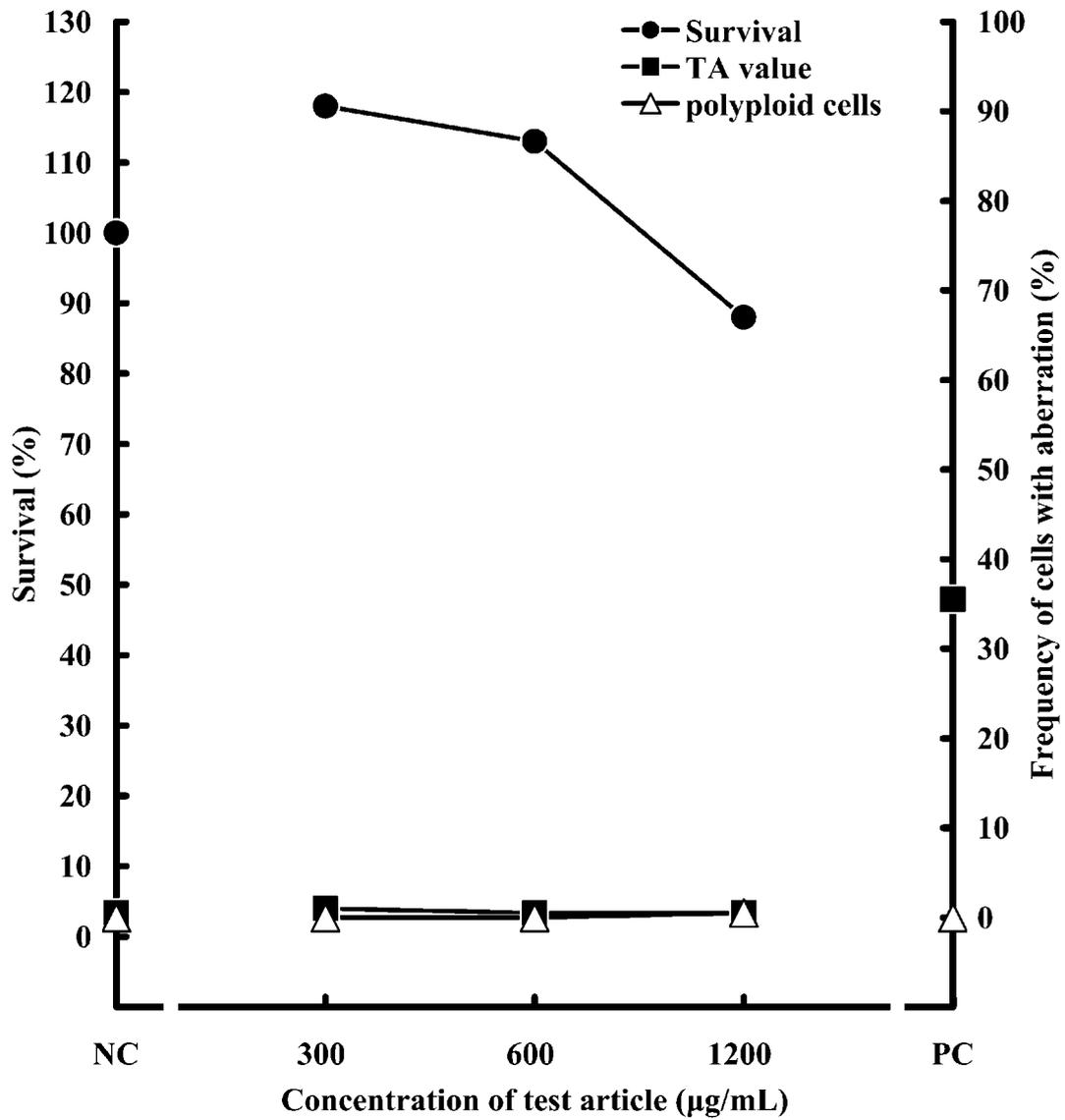


Fig. 1

Results of the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Short-term treatment : -S9 mix]

NC : Negative Control(water for injection)

PC : Positive Control (mitomycin C : 0.075 µg/mL)

Survival was displayed using the RCC.

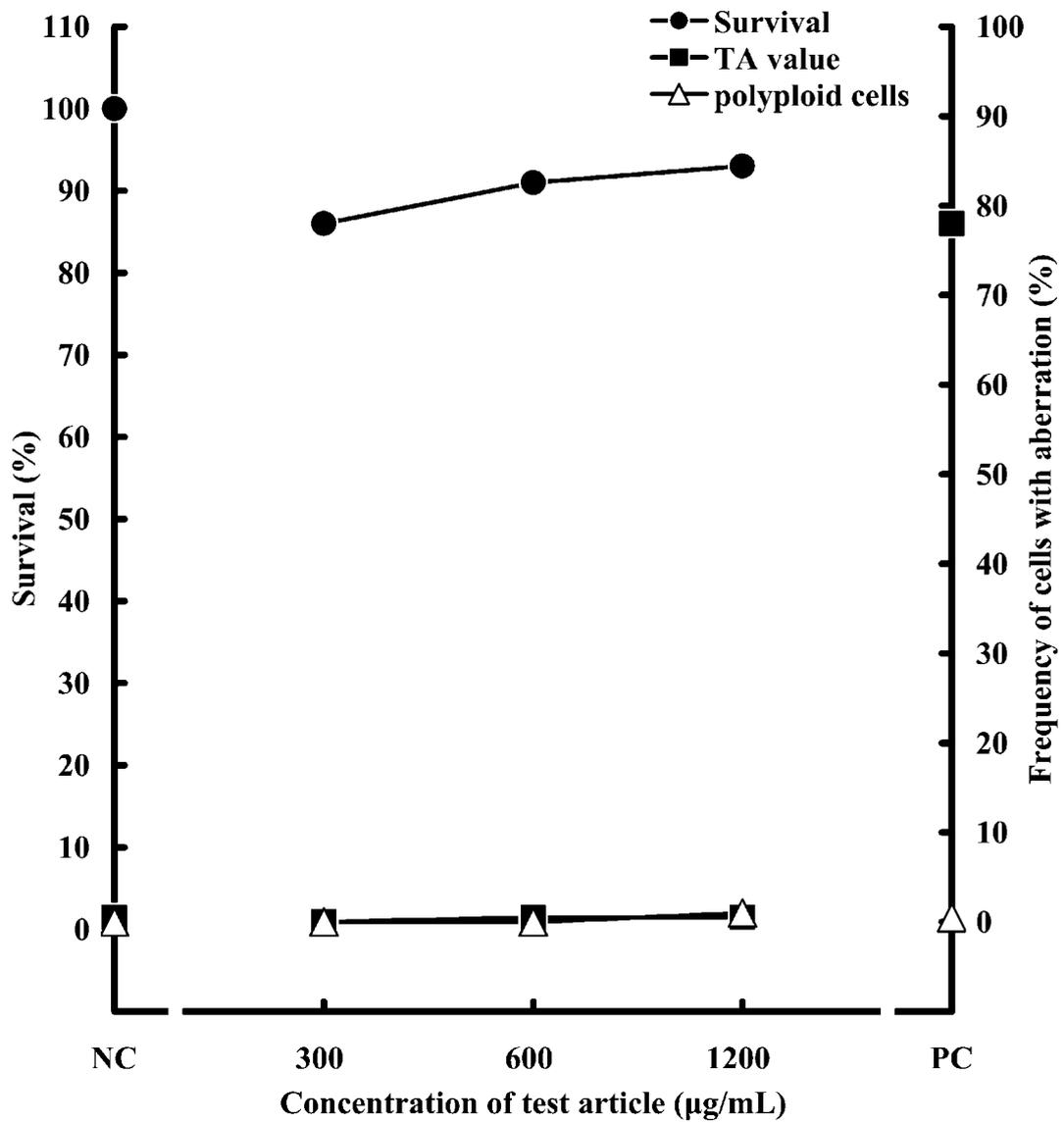


Fig. 2

Results of the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Short-term treatment : +S9 mix]

NC : Negative Control(water for injection)

PC : Positive Control (cyclophosphamide : 14 µg/mL)

Survival was displayed using the RCC.

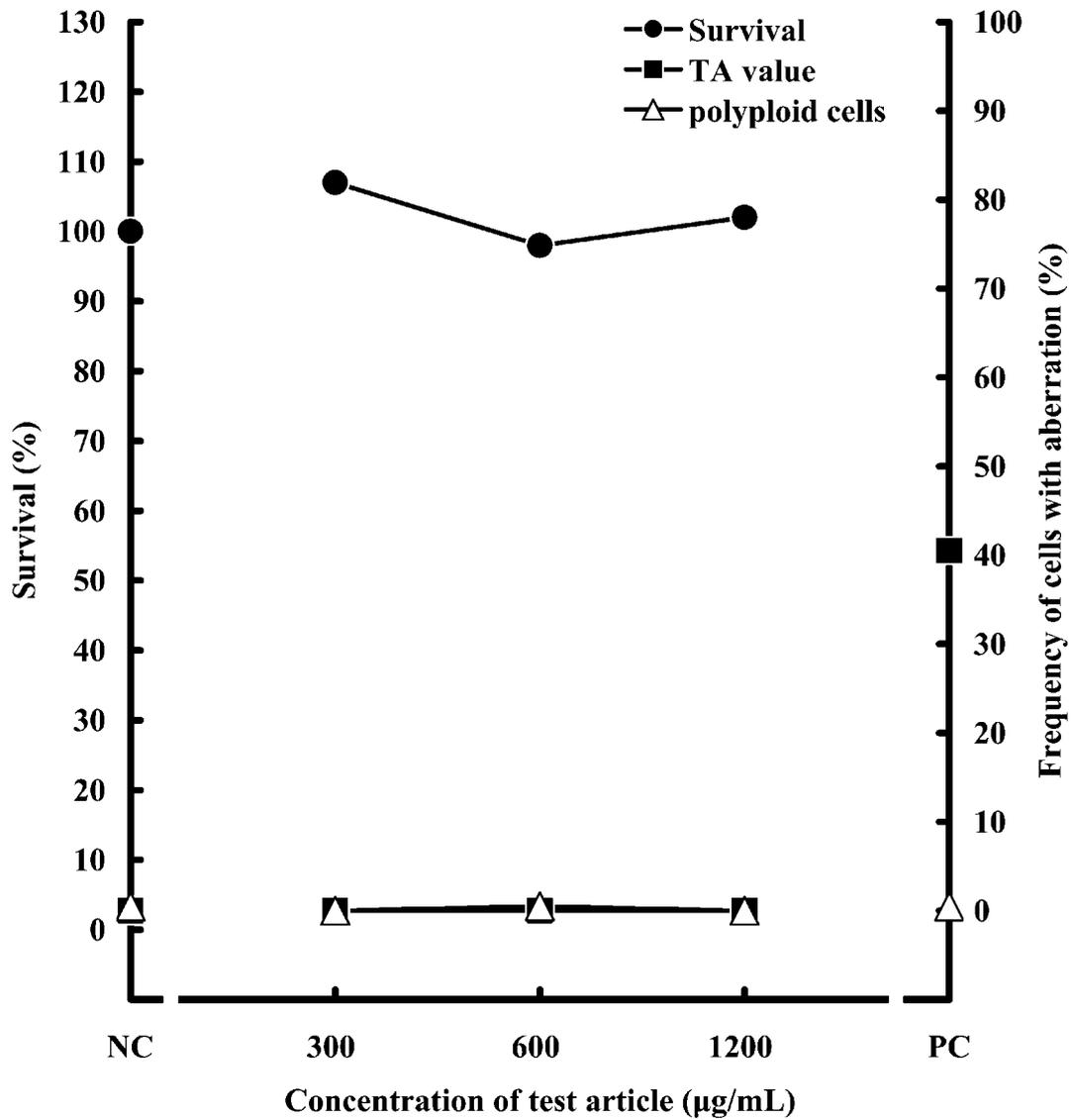


Fig. 3

Results of the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Continuous treatment : 24hr]

NC : Negative Control(water for injection)

PC : Positive Control (mitomycin C : 0.050 µg/mL)

Survival was displayed using the RCC.

Table 1 Chromosome aberration in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate  
[Short-term treatment:-S9 mix]

Time (h)	S9 mix	Conc. of test article (µg/mL)	Number of cells with structural chromosome aberration (%)									RCC (%)	Number of cells with numerical chromosome aberration (%)						
			Cells observed	ctb	cte	csb	cse	other	TA(%)	g	TAG(%)		Judge-ment	Cells observed	Polyploid cells	other	Total (%)	Judge-ment	
6-18	-	NC	100	1	0	0	0	0	1	0	1	-	100	100	0	0	0	-	
			100	0	0	0	0	0	0	0	1		1	100	100	0	0	0	-
			200	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	1(0.5)	2(1.0)			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		
		300	100	1	0	0	0	0	1	0	1	-	118	100	0	0	0	-	
		100	1	0	0	0	0	1	0	1	100		0	0	0	-			
		200	2(1.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.0)	0(0.0)	2(1.0)			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)			
	600	100	0	1	0	0	0	1	0	1	-	113	100	0	0	0	-		
	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0		100	0	0	0	-			
	200	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	1(0.5)			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)				
	1200	100	1	0	0	0	0	1	1	2	-	88	100	1	0	1	-		
	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0		100	0	0	0	-			
	200	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	1(0.5)	2(1.0)			200	1(0.5)	0(0.0)	1(0.5)				
PC	100	9	27	0	0	0	36	0	36	+	-	100	0	0	0	-			
	100	7	28	0	0	0	35	3	38		100	0	0	0	-				
	200	16(8.0)	55(27.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	71(35.5)	3(1.5)	74(37.0)			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)				

g: chromatid or chromosome gap, ctb: chromatid break, cte: chromatid exchange, csb: chromosome break, cse: chromosome exchange, other: including fragmentation

TA: total number of cells with aberration excluding gap, TAG: total number of cells with aberration including gap.

NC: Negative control (water for injection)

PC: Positive control (mitomycin C, 0.075 µg/mL)

RCC(%) showed cell counts of test article treatment group against that of negative control.

Table 2 Chromosome aberration in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate  
[Short-term treatment:+S9 mix]

Time (h)	S9 mix	Conc. of test article (µg/mL)	Number of cells with structural chromosome aberration (%)										RCC (%)	Number of cells with numerical chromosome aberration (%)					
			Cells observed	ctb	cte	csb	cse	other	TA(%)	g	TAG(%)	Judge-ment		Cells observed	Polyploid cells	other	Total (%)	Judge-ment	
6-18	+	NC	100	0	0	0	0	0	0	1	1	-	100	100	0	0	0	-	
			100	0	1	0	0	0	1	0	1			100	0	0	0		
			200	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	1(0.5)	2(1.0)			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		
		300	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	86	100	0	0	0	-
			100	0	0	0	0	0	0	0	0	100			0	0	0		
			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	200			0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		
	600	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	91	100	0	0	0	-	
		100	1	0	0	0	0	1	0	1	100			0	0	0			
		200	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	1(0.5)	200			0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)			
	1200	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	93	100	1	0	1	-	
		100	1	0	0	0	0	1	0	1	100			0	1	1			
		200	1(0.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	0(0.0)	1(0.5)	200			1(0.5)	1(0.5)	2(1.0)			
PC	100	13	70	0	0	0	74	0	74		+	-	100	1	0	1	-		
	100	13	77	0	0	0	82	0	82	100			0	0	0				
	200	26(13.0)	147(73.5)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	156(78.0)	0(0.0)	156(78.0)	200			1(0.5)	0(0.0)	1(0.5)				

g: chromatid or chromosome gap, ctb: chromatid break, cte: chromatid exchange, csb: chromosome break, cse: chromosome exchange, other: including fragmentation

TA: total number of cells with aberration excluding gap, TAG: total number of cells with aberration including gap.

NC: Negative control (water for injection)

PC: Positive control (cyclophosphamide, 14 µg/mL)

RCC(%) showed cell counts of test article treatment group against that of negative control.

Table 3 Chromosome aberration in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate  
[Continuous treatment:24hr]

Time (h)	S9 mix	Conc. of test article (µg/mL)	Number of cells with structural chromosome aberration (%)									RCC (%)	Number of cells with numerical chromosome aberration (%)						
			Cells observed	ctb	cte	csb	cse	other	TA(%)	g	TAG(%)		Judge-ment	Cells observed	Polyploid cells	other	Total (%)	Judge-ment	
24-0	-	NC	100	0	0	0	0	0	0	0	0	-	100	100	1	0	1	-	
			100	0	0	0	0	0	0	0	0		0	100	100	0	0		0
			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		0(0.0)	200	200	1(0.5)	0(0.0)		1(0.5)
		300	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	100	100	0	0	0	-
			100	0	0	0	0	0	0	0	0	0		107	100	0	0	0	
			200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		200	200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	
	600	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	98	100	0	1	1	-	
		100	0	0	0	0	0	0	0	0	0		98	100	0	0	0		
		200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		200	200	0(0.0)	1(0.5)	1(0.5)		
	1200	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	102	100	0	0	0	-	
		100	0	0	0	0	0	0	0	1	1		102	100	0	0	0		
		200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.5)	1(0.5)		200	200	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)		
PC	100	8	35	0	0	0	41	1	42		+	-	100	100	0	0	0	-	
	100	8	35	0	0	0	40	0	40			-	100	100	1	0	1		
	200	16(8.0)	70(35.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	81(40.5)	1(0.5)	82(41.0)			-	200	200	1(0.5)	0(0.0)	1(0.5)		

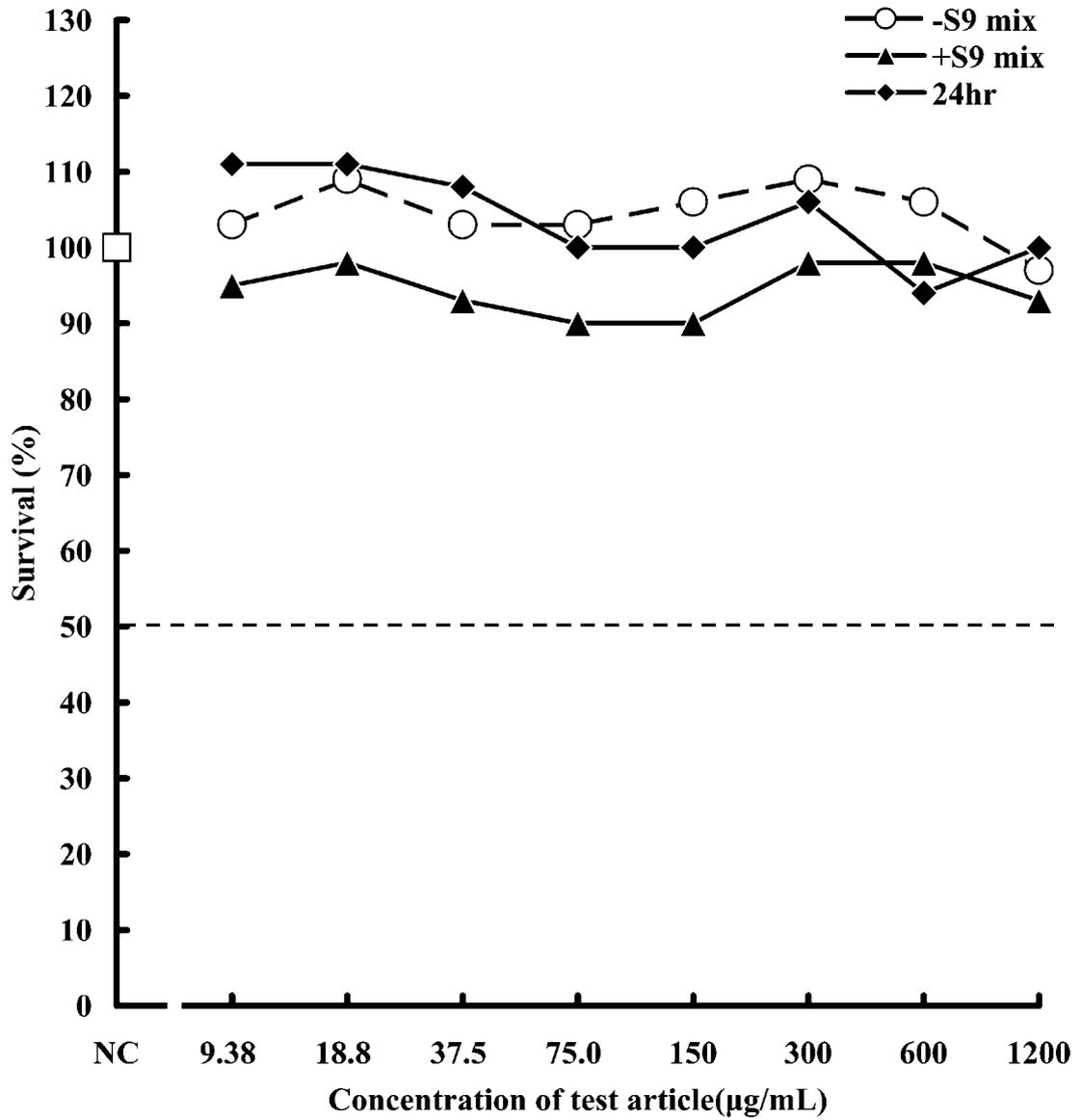
g: chromatid or chromosome gap, ctb: chromatid break, cte: chromatid exchange, csb: chromosome break, cse: chromosome exchange, other: including fragmentation

TA: total number of cells with aberration excluding gap, TAG: total number of cells with aberration including gap.

NC: Negative control (water for injection)

PC: Positive control (mitomycin C, 0.050 µg/mL)

RCC(%) showed cell counts of test article treatment group against that of negative control.



### Appendix 1

Results of the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

NC : Negative Control(water for injection)

Survival was displayed using the RCC.

## Appendix 2-1

Cell-growth ratio in the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Short-term treatment : -S9 mix]

Cell-growth inhibition test									
Study type		Treatment and Concentration (µg/mL)	RCC% <sup>a)</sup>	cytotoxicity/cytostasis% <sup>b)</sup>	Observation <sup>c)</sup>				
S9 mix	time (hr)				Condition of cells <sup>d)</sup>	Color of medium <sup>e)</sup>	Precipitates/Crystals <sup>f)</sup>		
							1)	2)	
-	6-18	0 (NC)	100	0	-	-	-	-	
		Test article	9.38	103	0	-	-	-	-
			18.8	109	0	-	-	-	-
			37.5	103	0	-	-	-	-
			75.0	103	0	-	-	-	-
			150	106	0	-	-	-	-
			300	109	0	-	-	-	-
			600	106	0	-	-	-	-
1200	97	3	-	-	-	-			
Concentration of 50% cell-growth inhibition : above <b>1200</b> µg/mL									

NC : Negative Control(water for injection)

- a) Relative Cell Count (RCC) was used as a measure of cytotoxicity/cytostasis to set the top concentration. The cell number were counted per plate. The value in the negative control group was regarded as a 100%. RCC in each dose showed as a value against the negative control value
- b) Cytotoxicity/cytostasis was shown as 100 - RCC.
- c) Condition of cells was observed at the end of treatment. Color of medium was observed immediately after addition of the test solutions. Precipitates/crystals were observed<sup>1)</sup> immediately after addition of the test solutions and<sup>2)</sup> at the end of treatment.
- d) - : Most of the cells were attached to the surface of plates and grew as a monolayer. Their shape was normal.
- e) - : No changes of color
- f) - : Absence of precipitates

All calculations were carried out using Excel 2003

## Appendix 2-2

Cell-growth ratio in the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Short-term treatment : +S9 mix]

Cell-growth inhibition test									
Study type		Treatment and Concentration (µg/mL)	RCC% <sup>a)</sup>	cytotoxicity/cytostasis% <sup>b)</sup>	Observation <sup>c)</sup>				
S9 mix	time (hr)				Condition of cells <sup>d)</sup>	Color of medium <sup>e)</sup>	Precipitates/Crystals <sup>f)</sup>		
							1)	2)	
+	6-18	0 (NC)	100	0	-	-	-	-	
		Test article	9.38	95	5	-	-	-	-
			18.8	98	2	-	-	-	-
			37.5	93	7	-	-	-	-
			75.0	90	10	-	-	-	-
			150	90	10	-	-	-	-
			300	98	2	-	-	-	-
			600	98	2	-	-	-	-
1200	93	7	-	-	-	-			
Concentration of 50% cell-growth inhibition : above <b>1200</b> µg/mL									

NC : Negative Control(water for injection)

- a) Relative Cell Count (RCC) was used as a measure of cytotoxicity/cytostasis to set the top concentration. The cell number were counted per plate. The value in the negative control group was regarded as a 100%. RCC in each dose showed as a value against the negative control value
- b) Cytotoxicity/cytostasis was shown as 100 - RCC.
- c) Condition of cells was observed at the end of treatment. Color of medium was observed immediately after addition of the test solutions. Precipitates/crystals were observed<sup>1)</sup> immediately after addition of the test solutions and<sup>2)</sup> at the end of treatment.
- d) - : Most of the cells were attached to the surface of plates and grew as a monolayer. Their shape was normal.
- e) - : No changes of color
- f) - : Absence of precipitates

All calculations were carried out using Excel 2003

## Appendix 2-3

Cell-growth ratio in the cell-growth inhibition test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Continuous treatment : 24hr]

Cell-growth inhibition test									
Study type		Treatment and Concentration (µg/mL)	RCC% <sup>a)</sup>	cytotoxicity/cytostasis% <sup>b)</sup>	Observation <sup>c)</sup>				
S9 mix	time (hr)				Condition of cells <sup>d)</sup>	Color of medium <sup>e)</sup>	Precipitates/Crystals <sup>f)</sup>		
							1)	2)	
		0 (NC)	100	0	-	-	-	-	
	24-0	Test article	9.38	111	0	-	-	-	-
			18.8	111	0	-	-	-	-
			37.5	108	0	-	-	-	-
			75.0	100	0	-	-	-	-
			150	100	0	-	-	-	-
			300	106	0	-	-	-	-
			600	94	6	-	-	-	-
			1200	100	0	-	-	-	-
Concentration of 50% cell-growth inhibition : above <b>1200</b> µg/mL									

NC : Negative Control(water for injection)

- a) Relative Cell Count (RCC) was used as a measure of cytotoxicity/cytostasis to set the top concentration. The cell number were counted per plate. The value in the negative control group was regarded as a 100%. RCC in each dose showed as a value against the negative control value
- b) Cytotoxicity/cytostasis was shown as 100 - RCC.
- c) Condition of cells was observed at the end of treatment. Color of medium was observed immediately after addition of the test solutions. Precipitates/crystals were observed<sup>1)</sup> immediately after addition of the test solutions and<sup>2)</sup> at the end of treatment.
- d) - : Most of the cells were attached to the surface of plates and grew as a monolayer. Their shape was normal.
- e) - : No changes of color
- f) - : Absence of precipitates

All calculations were carried out using Excel 2003

## Appendix 3-1

Results of observation in the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate

[Short-term treatment : -S9 mix]

Chromosome aberration test							
Study type		Treatment and Concentration (µg/mL)	Observation <sup>a)</sup>				
S9 mix	time (hr)		Condition of cells <sup>b)</sup>	Color of medium <sup>c)</sup>	Precipitates/Crystals <sup>d)</sup>		
							1)
		0 (NC)	-	-	-	-	
-	6-18	Test article	300	-	-	-	-
			600	-	-	-	-
			1200	-	-	-	-
		PC	-	-	-	-	

NC : Negative Control(water for injection)

PC : Positive control (mitomycin C : 0.075 µg/mL)

a) Condition of cells was observed at the end of treatment. Color of medium was observed immediately after addition of the test solutions. Precipitates/crystals were observed<sup>1)</sup> immediately after addition of the test solutions and<sup>2)</sup> at the end of treatment.

b) - : Most of the cells were attached to the surface of plates and grew as a monolayer. Their shape was normal.

c) - : No changes of color

d) - : Absence of precipitates

## Appendix 3-2

Results of observation in the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate  
[Short-term treatment : +S9 mix]

Chromosome aberration test							
Study type		Treatment and Concentration (µg/mL)	Observation <sup>a)</sup>				
S9 mix	time (hr)		Condition of cells <sup>b)</sup>	Color of medium <sup>c)</sup>	Precipitates/Crystals <sup>d)</sup>		
							1)
+	6-18	0 (NC)	-	-	-	-	
		Test article	300	-	-	-	-
			600	-	-	-	-
			1200	-	-	-	-
		PC	-	-	-	-	

NC : Negative Control(water for injection)

PC : Positive Control (cyclophosphamide : 14 µg/mL)

a) Condition of cells was observed at the end of treatment. Color of medium was observed immediately after addition of the test solutions. Precipitates/crystals were observed<sup>1)</sup> immediately after addition of the test solutions and<sup>2)</sup> at the end of treatment.

b) - : Most of the cells were attached to the surface of plates and grew as a monolayer. Their shape was normal.

c) - : No changes of color

d) - : Absence of precipitates

## Appendix 3-3

Results of observation in the chromosome aberration test in cultured Chinese hamster (CHL/IU) cells treated with Ethyl lactate  
[Continuous treatment : 24hr]

Chromosome aberration test							
Study type		Treatment and Concentration (µg/mL)	Observation <sup>a)</sup>				
S9 mix	time (hr)		Condition of cells <sup>b)</sup>	Color of medium <sup>c)</sup>	Precipitates/Crystals <sup>d)</sup>		
							1)
		0 (NC)	-	-	-	-	
	24-0	Test article	300	-	-	-	-
			600	-	-	-	-
			1200	-	-	-	-
		PC		-	-	-	

NC : Negative Control(water for injection)

PC : Positive control (mitomycin C : 0.050 µg/mL)

a) Condition of cells was observed at the end of treatment. Color of medium was observed immediately after addition of the test solutions. Precipitates/crystals were observed<sup>1)</sup> immediately after addition of the test solutions and<sup>2)</sup> at the end of treatment.

b) - : Most of the cells were attached to the surface of plates and grew as a monolayer. Their shape was normal.

c) - : No changes of color

d) - : Absence of precipitates

T-G092

## 信頼性保証書（1/2）

試験番号 : T-G092

試験表題 : 乳酸エチルのほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験

本試験は以下に示す基準を遵守して実施されたことを保証致します。

- 「新規化学物質等に係る試験を実施する試験施設に関する基準」  
（平成 23 年 3 月 31 日、薬食発 0331 第 8 号、平成 23・03・29 製局第 6 号、  
環保企発第 110331010 号）

なお、調査は下記の通り実施致しました。

2014 年 3 月 20 日

株式会社ボゾリサーチセンター

信頼性保証部門

### 試験における調査

項目	担当者	調査日	試験責任者及び 運営管理者への 報告日
試験計画書		2013 年 11 月 21 日	2013 年 11 月 21 日
細胞播種		2013 年 12 月 6 日	2013 年 12 月 9 日
調製・保存（被験物質・陽性 対照物質）、被験物質の処理		2013 年 12 月 9 日	2013 年 12 月 11 日
染色体標本作製（固定）		2013 年 12 月 10 日	2013 年 12 月 11 日
染色体標本作製（染色）		2013 年 12 月 11 日	2013 年 12 月 12 日
試験計画書変更書（1）		2013 年 12 月 12 日	2013 年 12 月 14 日
染色体標本観察		2013 年 12 月 25 日	2013 年 12 月 25 日
被験物質の安定性確認		2014 年 1 月 28 日	2014 年 1 月 30 日

## 信頼性保証書 (2/2)

項目	担当者	調査日	試験責任者及び 運営管理者への 報告日
生データ	[Redacted]	2014年 2月 24日	2014年 2月 24日
改善確認		2014年 2月 27日	2014年 2月 27日
最終報告書草案・図・表・付表		2014年 2月 24日	2014年 2月 24日
改善確認		2014年 2月 26日	2014年 2月 26日
申請資料		2014年 2月 24日	2014年 2月 24日
改善確認		2014年 2月 26日	2014年 2月 26日
生データ (被験物質の安定性)		2014年 2月 26日	2014年 2月 26日
生データ (被験物質関係)		2014年 3月 20日	2014年 3月 20日
最終報告書		2014年 3月 20日	2014年 3月 20日

## 施設調査

項目	担当者	調査日	部門責任者及び 運営管理者への 報告日
培養細胞の性状検査	[Redacted]	2013年 7月 26日	
		2013年 7月 29日	
		2013年 7月 30日	
		2013年 7月 31日	
		2013年 8月 1日	
		2013年 8月 7日	2013年 8月 7日
改善確認	[Redacted]	2013年 8月 15日	2013年 8月 15日